

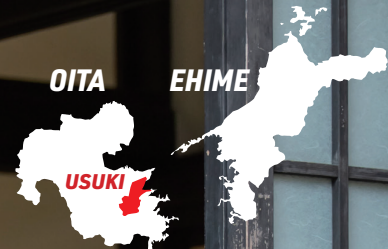
食の都 臼杵

私の住む臼杵市は、大分県の東海岸部に位置する人口3万人ほどの城下町です。地形や地質に恵まれたこの地域では、ミネラル豊富な水を活かした発酵・醸造業や郷土料理を通じて、400年以上にわたり多様な食文化を発展させてきました。

近年では、有機農業や地産地消を推進し、完熟堆肥を活用した土づくりを公営で行うなど、持続可能な食の取り組みを進めています。こうした活動が評価され、令和3年にユネスコ食文化創造都市に加盟しました。

数字の男、市長になる

高校で数学に夢中になり、大学でもその道を追求めた私が選んだ就職先は、現在の厚生労働省でした。同省には、数学や統計学を駆使して医療や年金などの制度設計に必要な根拠を示す専門の職員がいます。私も退職まで30年にわたって数字と向き合い、iDeCoの拡充や子育て支援制度の創設に携わりました。ある時、現場を知らないま



うすき
大分県 臼杵市長
たかし
西岡 隆 さん

地方都市が評価されることが
日本の持続につながる



ま数字を扱うことに疑問を感じていた私に、出向の話が舞い込んできました。

臼杵市に赴任した私は、コミュニティづくりや医療・福祉のネットワークづくりでまちに深く関わりました。しかし、2年間の出向期間では全てを成し遂げることはできず、2年後に再び臼杵市役所に出向しました。延べ5年にわたり臼杵市のまちづくりに関わった私は、このまちの魅力と可能性に強く惹かれていました。

それは家族も同じで、2回目の出向が終わった時、臼杵市を「ふるさと」と呼ぶ家族を残し、私だけが東京に単身赴任したほどです。

親族も同級生もいない土地ではありますが、共にまちづくりに汗を流した仲間たちの期待と応援を受けて、今年1月から市政の舵取りを担わせていただいています。

チャンスが来ている

多くの地方都市と同様に、

臼杵市の最大の課題は人口減少と少子高齢化です。

コロナ禍がもたらした社会の変容や日々進化するデジタル技術は、都会と地方の距離を飛躍的に縮めました。今、地方へ富や人材を呼び込むチャンスが来っています。

でもそれは、一つのまちだけが頑張っても効果がありません。臼杵市と四国中央市という、私の「2つのふるさと」が協力して、地方を盛り上げることができれば良いなと思っています。

うすき竹宵 (11月の第1土・日)



2万本の竹灯籠の光が城下町の白壁や石畳を照らす

郷土料理 黄飯



くちなしの実を浸した水で炊いたご飯

取材場所 国の都市景観100選「二王座」にある無料休憩所(旧真光寺)

1972年 上柏町生まれ
松柏小→三島東中→川之江高校→大阪大学数学科
1995年 厚生省(現・厚生労働省)に入省。2009年から2度にわたり臼杵市役所に出向する。厚生労働省保健局調査課長やこども家庭庁長官官房参事官などを歴任し、2024年9月に退職。
同年12月 臼杵市長選挙に出馬し、2025年1月から現職。意見交換会「市長と話そう!」を月に2回開催するなど、市民との対話を徹底する